



現場から（最近のニュースから）

コントロール不可能



夏休みが終わりに近づくと、あちらこちらで「死なないで」と子どもたちに呼びかける記事をたくさん見かけました。休み明けに学校に行きたくないという自殺する子がいるからでしょう。学校に行きたくないことは悪いことではないし、きみがつらい気持ちはよく分かるということ、いろいろな人が書いていました。実際に学校に行きたくなかった人々、不登校にも

なった人々が、自分の実体験をもとに励ましている内容も多くありました。朝日新聞の天声人語には、50年ほど前に12歳の息子を亡くした高史明（コ・サミョン）さん（今夏に亡くなった在日朝鮮人の作家）のことが書いてありました。

高さんは、息子を亡くした悲しみの中で、詩を集めて『ぼくは12歳』として出版しました。多くの中高生から、彼のつらさがわかると手紙が来たそうです。高さんは、寄り添う心のありがたさと、息子を理解できなかった悔しさ、二つを抱きしめつつ、それでも死んではいけない、と言ったそうです。高さんの家を訪ねてきた子に話したことが書いてありました。頭が「死にたい」と告げても、手足にも相談しないといけないよ。足の裏をよく洗って、返事が聞こえてくるまで歩いてみるんだ——「淋（さび）しいこころの持主（もちぬし）が、いま一人の淋しいこころの持主と出会うなら、その二人は、もはや淋しい一人ではないのである」と高さんは書いているそうです。<8月28日朝日新聞天声人語より>

たしかに、頭が死にたいと言っても、自分の手足に相談することができるなら、その子はまだ力があると言えるでしょう。また、「さびしい心の持ち主が、さびしい心の持ち主と出会い、さびしい一人ではないから」と、慰められて力を受けることもあるでしょう。しかし、ほんとうに、さびしいから、苦しいから自殺を選ぶのでしょうか。いじめられて苦しかったから、だれにも相談できずに悲しかったからと、自殺した人の理由を見つけて、再発防止のために、相談窓口をもうけたり、なんとかいじめをなくそうと努力したり、家庭環境を良くする工夫もしています。しかし、自殺がなくなることはありません。それは、その人自身ではどうしようもない、相談もしてもどうしようもなく、だれに出会っても慰められない、コントロール不可能な状態になるからです。なぜ、そのように自分ではコントロール不可能な状態になるのでしょうか。なにか分かるような問題があるからではありません。多くの人が知らない、人間ではどうしようもない問題があるからです。そして、その問題を知るときに、はじめて、ほんとうの解決を見つけることができます。それについてあなたにお知らせしたいのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください